

「県政タウンミーティング」会議録

テーマ 「地域の復興に向けて」

日時 平成26年11月29日（土） 17時30分から19時30分まで

場所 白馬村多目的研修集会施設（北安曇郡白馬村）

目次

- 1 開会 P 2
- 2 知事 冒頭あいさつ P 2
- 3 意見交換 P 3
 - 質問1 「困っていること・不安なこと・してほしいこと」
 - 質問2 「自分たちでできること」
 - 質問3 「将来どういう地域をつくっていきたいか」
- 4 知事 結びのあいさつ P 32
- 5 閉会 P 33

進行役 内山二郎氏（フリージャーナリスト）

1 開会

【広報県民課長 土屋智則】

皆様、大変お待たせをいたしました。ただいまから県政タウンミーティングを始めたいります。意見交換までの司会を務めます、私、県庁広報県民課長の土屋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本日の県政タウンミーティングは、今回、長野県神城断層地震のこの地域の復興に向けてをテーマに、住民の皆様と意見交換をしてみることとしております。

意見交換に先立ちまして、長野県知事阿部守一よりごあいさつを申し上げます。

2 知事あいさつ

【長野県知事 阿部守一】

どうも皆様、こんばんは。今回の神城断層地震では、本当にこの白馬・小谷、あるいは大町、小川村、長野市、大変大きな被害を受けました。被災された皆様方に、まずは心からお見舞いを申し上げたいと思います。そして、本日、こういう形でタウンミーティングを開催させていただきました。

実は昨日、この神城断層地震に対する県としての復興・復旧の支援方針、決定をさせていただきました。特に私は、被災された皆様方の暮らしの再建、そしてこの地域が、本当に地域の皆様方の支え合いの中で、今回も死者が出ないということで対応いただいたわけでありませけれども。やはり、これからは私ども県も、皆様方の暮らしをしっかりと支える中で安心して暮らせる、そして将来に向けて、希望を持ってお過ごしいただける環境をつくっていかねばいけないと思っています。

発災後、わずかまだ1週間という段階でありますので、まだ家の片づけ等で大変な状況で、まだまだ混乱されているという部分もあると思います。ただ、この地域は、私が申し上げるまでもなく、豪雪地域であります。我々県としても、行政としても、一刻も早くできることはしっかりと手を打っていかねばいけないと思っています。

そういう観点で、今日、大変お疲れのところ、そして大変お忙しいところでありませけれども、こういう形で県政タウンミーティングを開催させていただきました。是非、率直な思いをどんどん出していただければありがたいと思っております。

今日は市町村長の方々にも参加していただいておりますし、県からもそれぞれの各課の担当者が来ています。そして先般も、安倍総理には現地に入って現状を見ていただきましたけれども、その後も政府の関係省庁に、私からもいろいろ要請をさせていただいています。菅官房長官のところにもお伺いをさせていただいて、政府を挙げてしっかりと対応していくというお話もいただいています。

災害対応は、刻一刻といろいろ状況が変化してくる中で、私ども長野県が作りましの方針も、昨日出したものでこれで固定ということではなくて、皆さんの思いとかご意見を伺う中で、どんどんいいものにしていきたいと思っています。

私の思いは、何よりも皆様方の思いと我々行政が取り組むべきことがずれないようにしながら、そして皆様方の暮らしが本当にもう一回、この地域の絆の中で再生され、そして

将来に向けて安心感を持って暮らしていただくことを全力で応援していくことだと思っております。

今日、この場だけで言い尽くせないこととか、あるいは、まだこれからもいろいろな課題が出てくると思います。そのときどき、また我々もしっかりお話を聞かせていただくようにいたしますが、まず今の時点での皆さんの思いをどんどん出していただいで、一緒になって皆さんの暮らしの再建、そしてこの地域の未来に向けての再興をしっかりと考えていきたいというふうに思っています。

今日は本当にお忙しい中、お集まりをいただきましたこと、重ねて御礼を申し上げまして、是非率直なご意見を出していただきますことを心からお願い申し上げまして、私の冒頭のあいさつとさせていただきますと思います。本日はありがとうございます。

【広報県民課長 土屋智則】

ありがとうございました。では午後7時20分ぐらいまでを予定しまして、意見交換に入っております。なお、この意見交換の内容につきましては、お名前などの個人情報を除き、後日、県のホームページで公開させていただきますので、あらかじめ申し上げます。

本日は意見交換の進行役を、フリージャーナリストの内山二郎様にお願いをしております。

内山様はフリージャーナリストとして執筆や講演に取り組むかたわら、高齢者の皆様の生きがづくり、健康づくり、社会参加の支援にご尽力されるなど、多方面でご活躍になっておられます。特に東日本大震災の際には、復興支援県民本部の委員長としてご活躍をいただき、また栄村の地震の際にもこうした意見交換の進行をお願いいたしましたことから、本日もご足労をいただきました。

それでは内山様にマイクをお渡しして、意見交換に入っております。よろしく願いいたします。

3 意見交換

【内山二郎氏】

皆さん、こんばんは。このタウンミーティングの進行をさせていただきます、内山二郎と申します。よろしく願いいたします。

11月22日に地震が発生し、私も長野に住んでいるんですけども、もうびっくりいたしました。そしてテレビをつけましたら、もう刻々とこの状況が報じられていて、この震災の大きさを改めて感じたわけでありましてけれども。この1週間、皆さん、本当に心身ともに大変なことだったことと思います。

1週間ですので、今、どうしたらいいのかということではいっばいだと思いますけれども、まず今日は3つのテーマを掲げてみました。今、困っていること、不安なこと、それから何とかしてほしいことというようなことが、1つのお題。それから、自分たち自身で一体何ができるだろうか。今日も白馬高校の皆さんがここにボランティアに来て、そして一生懸命働いてくださったそうです。明日は日曜日です。いろいろなところから応援のボラン

ティアも来ると思います。それから地元の皆さん、それほど被害の大きくなかった皆さんが、被災された皆さんのところへ行って一生懸命お手伝いをしているという報道も聞いております。自分たちで一体何ができるのかという問題。それから、少し長い目で、そこまでまだ余裕ないという方もいらっしゃるかもしれませんが、この被災を機に、私たちの村を将来に向かってどう復興していったらいいのか、どういう安心・安全の村をこれからつくっていったらいいのかという3つのテーマで皆さんと話し合いを深めていきたいと思ひます。

この県政タウンミーティングでは、参加者の皆様のご意見等を「付箋紙を利用した情報整理法」により整理し、意見交換をしました。

方法は、3つの質問のそれぞれについて、ご自分の考えを付箋紙に書いていただき、会場正面に設置した模造紙の上で、グループ化をします。そのご意見について、詳しく発言をしていただきながら、知事や県の担当者がお答えし、議論を深めていくものです。

(参考写真：参加者の書いた付箋を整理したもの)





それで、その方法は、これは今、紹介がありましたけれども、栄村でもやった方法なんです。皆さん、入り口でこういう資料をいただいていると思います。ちょっとこれを見てください。

そしてピンクと黄色と、それから萌黄色の緑の薄いもの、薄い萌黄色のカードが3枚ずつ張ってあります。これを使って皆さんの今の気持ちをここに吐き出していただきながら、それを少し整理して、そしていろいろなことを共有し、将来に向かってどういう方向性を見出していったらいいのかという合意形成にうまく結びつけていければいいなと思っています。

それで、これの使い方ですけれども、今、とにかく困っていること、不安なこと、何かしてほしいことというのは、このピンクのこれです。それでこれの使い方ですが、糊のついていない方、これを裏の上に来るようにして、これ張れるように裏の上にして、そして横書きでいきたいと思います。どんなことでも結構です。今、思っていること。

そして所属、例えば白馬村の何々とかというお名前をちょっと書いていただくと、これは公表はされないということになっておりますので、ホームページなどで。ただ、この議論を深める上で、とてもそのことが大事になってきますので、地域とお名前を入れて、そしてそこに①の「困っていること、不安なこと、何かしてほしいこと」に関してはピンクの色に書いていただき、係員が回収します。

同時にこれ進めていただきたいんですが、では、「この震災に対して、自分たちが一体何ができるのか。」今、もう既に助け合いをやっているとか、それから自分はペンションを貸しているというようなことがあるし、それから「こういう助け合いの方法もあるよ」というような、そういうようなアイデアでも結構です。自分たちができること、行政頼みでは

なくて、自分たち自身にできることというようなことを、この黄色に書いていただきたい。

それから3枚目の萌黄色は、「将来この地域を、これを機に、この災害を機にどういう村につくり変えていくか。夢と希望のある村にどういうふうにしてつくり変えていったらいいのか」、そのためのアイデアとかご意見を書いていっていただきたい。

それで注意すべきことは、1枚の紙にいろいろなことを書いてしまわないということです。例えば、とりあえず、今、家族が住む家がなくて困る、これ1枚ですね。それから農業をやっている、来年うまく田んぼの作付けができるかどうか心配、クラックが入っているというのは、この1枚の中に書いてしまわないで、家の生活の問題で1枚、それから農業の来年どうしたらいいかわからないという心配、これまた1枚というふうに書いていただくと、グループに分けることができるので、ありがたいです。是非、それご協力ください。

ということで行きたいんですが、ちょっと皆さん、硬くないですか、雰囲気、大丈夫ですか。せっかくここで、白馬から、それから小谷から、それから大町からも来ていらっしゃると思います。それから、この同じ白馬村に住んでいても、顔は知っているけれども話をしたことがないという方もいらっしゃると思います。

そこでちょっと5分間だけ、これはよくやる、こういうワークショップの入り口でやるものなんですが、5分間だけ時間をとりますので、自由に、立っていただいて、知っている人はもういいです。知らない人のところへ行って、「こんにちは」と握手をして、「私、どここの何々なんです、どうぞよろしく」と、こう言う。それでまた知らないところへ行ってというふうにして、5分間で何人と知らない人と知り合いになり、心の絆をちょっとでも結ぶことができるかということにおつき合ください。

県庁の職員の皆さんもそこに恐れ顔をして座っているだけでなく、職員の皆さんも皆さんの中に入って、私は県でこういうことをやっているんですというようなことを自己紹介し合いながら5分間だけ。知事と握手をしたことのない方も随分いらっしゃる、ほとんどないと思いますけれども、知事と握手をしていただいても結構です。どうぞお立ちください。よーい、はい。

【握手ゲーム開始】

できるだけたくさんの人と握手をして、知り合いになってください。できるだけたくさんの人と、話し込まないで。たくさんの人と知り合いになってください。

今日は村長さんも見えていらっしゃいますし、村のいろいろな職員の方も来ていらっしゃいます。県の職員、それぞれの部署の職員の方もいらっしゃいます。

【握手ゲーム終了】

はい、話は尽きないと思いますが、握手会もそこまでにしたいと思います。元のお席にお戻りください。元のお席におつきください。

よろしいですか。そうでしたら、お席にお座りください。どうだったですか、知事と親しく握手できて、どうでしたか。

【参加者女性A】

うれしかったです。

【内山二郎氏】

うれしかった。そうですね、こんな機会でないとな知事と握手なんかできないものね。

【参加者女性A】

地震があったときは、もう死んだかと思った。

【内山二郎氏】

死んだかと思ったけれども、生きていたから知事と今日も握手ができたという、よかったですね、生きていてよかったですね、本当に。

でも、これ犠牲者がいなかったというのが今回の震災の大きな特徴、その評価として、日ごろの近隣の人間関係がしっかり結ばれていたからという評価が非常に今、話題になっていますね、これは海外にも発信されているそうです。

はい、それでは早速ワークに入っていきたいと思いますが、さっきも言いましたように、どこからお書きいただいても結構です。①の「困っていること、不安なこと、こんなことをしてほしいなと思うこと」をピンク。それから黄色、「何ができるかということ」で黄色。それから3番は、「この地域をこの震災を機にこんなふうに復興させ、将来に夢と希望の持てる地域にしていきたい」というアイデア。どこから書いていただいても結構です。スタッフの皆さんはどんどん書かれたものから集めてここに整理して行ってください。

どんなことを書いてもバツはないというのがこのルールです。それから、そこにもありますけれども、誰かが発言したら、そんなばかなこと何を言っているんだなんていうことは言わない、というのがこのルールです。どんな気持ちもみんなが受け止め合うというね。

自由です。どんなことでも結構です。どんどん張っていきましょう。とりあえず幾つか張っていくと見えてくるから。

横書きで、そして地域と、それからお名前もお願いいたします。

少しまとまってきたら、このマーカーを使ってください。いろいろなマーカーを使ってください。黄色は使わないでください、見えないので。濃い方がいいです。いろいろな色の、それで情報についてとかいろいろ。

【参加者の皆様が付箋紙にご意見を記入】

1枚の紙に1項目ずつお願いしますね。1番の課題が括れてきたら、2番、3番は同時

進行して作業してもらおうとして、1番から始めていきたいというふうに思います。

時間も限られておりますので、同時進行で行きたいと思います。まず①のピンクのカード、困っていること、不安なこと、何かしてほしいことという括りの中に、大きく分けて、一番はやはりカードが多かったのは居住の問題、居住環境の問題ですね。それから、観光振興の問題があります。それから情報の問題、交通インフラの問題、それから二次災害に対する不安、それからコミュニティ、隣近所の関係、コミュニティの問題、それから心理的なメンタルケアの問題、それから上下水道の問題、それから過疎化対策、それから法指定の問題というふうに来ております。

大きいもの、これ本当は一人一人から書いた気持ちをインタビューしたいんですけども、ちょっとインタビューする、全員からご意見を聞く時間がないので、少し読み上げながら、その中の何人かから直接、聞いていきたいと思います。

小谷村の男性Aさんが、自分の家に入れなくて、これが一番困っていることだとおっしゃっています。それから白馬の、これは男性Bさんですか、仮設住宅の早期建設を望む。それから小谷村の男性Cさんが、住宅を直すお金がないというような心配。それから、白馬村の男性Dさんが、我が家が壊れ、住めなくなった人たちがほかの地へ、ほかの市町村に移り住むという人が多く出るのではないかと心配しております。人口の減少が加速するのではないかとというようなことをおっしゃっていますね。

まず一番切実な問題として、小谷村の男性Aさん、自分の家に入れなくて。Aさん、どこにいらっしゃいますか、ここにいらっしゃいました。マイクをお願いします。簡単に気持ちを、それが一番、今、困っていること、そのまま結構です、座ったままで。

【参加者男性A】

先日、家屋の検査をしていただきまして、赤い紙を張っていただいたんですけども、中は散らばっているんですが、入るわけにいかないし、それでも何としても自分の家を直さないと生活できない人間が3人で暮らしているものですから、是非是非と願っているわけです。

【内山二郎氏】

何とか居住を、住むところ、帰る家を何とかしたいということですね。ありがとうございます。

何人かから聞いていきたいと思います。それから、仮設住宅の早期建設を望みます。白馬村のBさん。

【参加者男性B】

幸いに、私の住む地域は大きな被害はなく助かっているんですが、やはり一番大事なことは、ここは豪雪地帯でありますので、雪が降る前に、できるだけ早く被害に遭われた方が、家屋を倒壊された方が一時も早く、少しでも安心して安らげる場所として仮設住宅の建設を急いでいただきたいと、それだけを思っています。

【内山二郎氏】

雪がもうすぐ、今日、明日、明日にも来るかもしれないという、そういう中で仮設住宅の建設を急いでほしいと。それから野平地区のEさんですか、家の蔵が落ちた。復旧の資金が心配である。お金の問題ですか、蔵が、Eさんいらっしゃいますか、いらっしゃらない。

それでは、これ同じようなことで、小谷のFさんが、被災家屋の冬越しが心配であるとおっしゃっています。これも同じような、Fさん。Fさんいらっしゃいますか。お願いいたします。

【参加者男性F】

家屋が被害を受けているわけですし、そこに1メートルとか2メートルとかという雪が積もったとき、自分たちも登っていけないし、重みで倒壊するのではないかと。だから、そういう家屋を持っている方、大変、心配していると思います。うちの話ではないのです。以上です。

【内山二郎氏】

心配している、冬越し、この冬をどう過ごすかという、はいはい。

それから、不安として大きな地震が再び起こるのではないかと心配しているのが、Gさんですね、白馬村。それから白馬村のHさんが、家を失ってしまった方々が当面落ちついて生活できる場所、住まいの確保を是非してほしいというふうにおっしゃっています。

それから、Iさんが、家がイエローカードで、どのようなことをしていけば、冬が近づく雪の心配で改修工事もできないので、入れるようになるのかなということでしょうか、Iさん、ちょっとこの気持ちを聞かせてください。

【参加者男性I】

今、書いたように、この間、調査が入りまして、カードがイエローということで、コメントというものは書いていなくて、ただイエローカードと、そういうふうに要注意ということなんです。

この時期に入りまして、かなり外部は亀裂が入ったり、この間、家の中を一部入ってお勝手等も見たんですけども、足の踏み場もない中で、それを見ると、あちこちにいろいろなダメージがあるということで。ただ、これ冬になって、雪国ですので、■■■■関連にしても、冬季間というのはなかなか仕事が、白馬というところはできないので、すぐそれ、春までどうするかというのが一つの心配ということで。

その中でイエローというのは注意をしろ、多分、するという、一つのことになっているみたいなんですけど、ただ、そこで今言った、余震が来て、またその被害があるのかという、そういうことを考えると、果たして、そこでこの冬を生活していいのかという、そのような心配があつて。最終的には家を改修するということになる、予算、お金の問題もある

し、その辺でどうしたらいいかというのが、今、まだ先が見えないというのが今の現状で、とりあえず心配しているのがこういうことです。

【内山二郎氏】

そういうことですね。知事にちょっと聞いてみましょうね、先ほど知事と打ち合わせしているときに、いろいろなカードが、赤やイエローや何か張られるんだけど、あれにもやっぱり、細かく見ていかなければいけないということがあってと、さっき言われていましたね。はい、簡単をお願いします。

【長野県知事 阿部守一】

ちょっと、これは今日は是非皆さんと一緒に考えなければいけないと思っているので、県の職員も来ているので、ちょっと私から県の職員にも、今の皆さんの思いを代弁して申しますけれども。あれイエローカードで、私もさっき何件か、赤とか黄色とか並べた家を拝見してきて、コメントは詳細に結構書いていただいている部分もあるなと思っているんですが。

今の方はあまり、黄色なのであまり書かれていない。そこは、要はそうすれば、どういうことに気をつければいいかというのが教えてもらえると。そこはちょっと赤、黄色の意味と、それからこれからの、張られた方へのサポートをどうするかというところ、ちょっと説明してもらえますか。

【建設部建築住宅課長 山田邦仁】

改めまして、皆さんこんばんは。県の建設部建築住宅課長の山田でございます。よろしくお願いたします。

ただいまのお話ですが、被災建築物は応急危険度判定の関係でございます。赤、それから黄、緑の紙が張られていると思います。

応急危険度判定につきましては、その後、余震等で危険がないかというようなことを見ておるわけで、赤については、例えば柱が折れているとか、そういったことで、仮に今つぶれていなくても、余震等つぶれるおそれもあるということで赤を張ってあります。ただし、赤の中にも、例えば屋根の瓦が落ちてきそうだとか、そういったことで、万が一、下にいたときに危ないというような、そういったことの部分でも赤紙が張られている場合がありますので、これにつきましてはそれぞれコメントの内容をまず見ていただいて、不明な場合には、今、住宅相談をやっておりますので、そこで聞いていただくと明確になるかと思えます。

それから黄色につきましては、これは先ほどお話しの中にもありましたが、注意をしながらであれば大丈夫だということで、その内容も、例えば床が抜けているとか、あるいはガラスが割れて落ちているだとか、そういったことの中で、そういった部分を処理とかすればという部分でございますので。二次の余震等、そういったことつぶれるということのない部分で見ておりますので、再度、相談所等でご相談をいただいて、確認をしていた

だけたらと思います。

それから緑に関しては、もうこれは、多分余震でも、通常の本震以上であればちょっとわからないんですが、本震度のものであれば大丈夫だろうというもので緑を張らせていただいております。以上でございます。

【内山二郎氏】

ありがとうございます。知事、ここにですね崩れた住宅の・・・よろしいですか。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございました。まず住宅の問題が、暮らしを再建する上で最も重要な課題だと私たちも考えています。今、いろいろお話しがありました。まず仮設住宅については、これは市町村の方で希望を把握していただいて、県としては、市町村から求めがあれば直ちに建設できるようにということで、今、既に準備を始めています。極力早く建設できるように対応しています。

それから、今の危険度判定の関係はちょっともう一回聞きますけれども、私がどこか住んでいて赤紙を張られていて、よく中身がわからないなというときは、聞けば教えてくれるということで良いですか。具体的に、どこに問い合わせればいいんですか。

【建設部建築住宅課長 山田邦仁】

赤紙等の張られている下のところに連絡先がございますので、そこに電話をしていただければ対応できるようにしております。

【長野県知事 阿部守一】

はい、ありがとう。ちょっと張られているけれども、何かこれどう対応していいかわからない方は、是非問い合わせ、具体的に確認していただければと思いますし、また、個別の住宅相談も、今、行っているところですので、そういうところでも相談、対応させていただきます。

住宅の再建等については先ほどお話ししてないですが、被災者生活再建支援制度という制度をつくって、国が全国制度をつくってしまして、全壊であるとか半壊であるとか、そういうものにあわせて一定のお金が出るということになっています。国の制度の対象にならないところも県として国と同じようにすると同時に、半壊という世帯の皆様方には50万円支給するというのを、今回の方針の中で決めています。

あと、例えば応急修繕して住めるというような部分は、今日はちょっと市町村長の皆さんもいらっしゃっていますが、私が全部、答えろということですので、私が申し上げると、災害救助法の適用の範囲内で応急修繕を地元の自治体ができるということについて、そこら辺はちょっと市町村の方ともよく相談していただければありがたいと思っています。

加えて、今日も何軒かのお宅を見せていただきましたけれども、ここにも実はあるんで

すけれども、住宅は大丈夫だけれども、宅地の方がひび割れていて住めないという方もいらっしゃいます。今、いつから、来週ですか、宅地の危険度判定はいつから。来週の何曜日、火曜日ですか・・・いやいや、宅地の危険度判定、今、建物危険度判定させていたでいますけれども、宅地の危険度判定もあわせてやっていますので、そこで今回の災害で宅地にどれくらいの影響、被害が出ているかというのは我々も把握させていただいた上で、またその宅地に対する対応が、どんなことが必要なのかというのは考えていかなければいけないと思っています。

とりあえず、住宅の方に赤とか黄色を張らせていただいていますますが、それと実は、先ほどの全壊とか半壊というのはまたちょっと観点が違うので、赤だと全て全壊という話ではないので、そこはまた、県とこれもいつごろから、これ市町村によってバラバラなんです。ちょっとそこら辺の仕組みもちょっと課長の方から説明してもらえますか。

【建設部建築住宅課長 山田邦仁】

今の話は、罹災証明の関係になるかと思いますが、これは市町村がまず発行主体になるわけですが、県、それから県の中でも建築、それと税務関係、そういったものが一緒になって協力し合いながらこれからやっていくわけですが、来週から入る予定としております。

各市町村の状況によってもありますので、日程についてはそれぞれで、いずれにしても来週からということにしております。

【長野県知事 阿部守一】

できるだけ早く我々も対応していきたいと思っていますし、先ほどの仮設住宅、もう準備作業は結構始めていますので、全く我々動きがないわけではなくて、報道されていない部分があっても、しっかりと準備作業はさせていただいているということは是非ご承知おきいただければと思っています。

とりあえず、いいですか、そのくらいで。すみません、ありがとうございました。

【内山二郎氏】

皆さんで、本当にピンクの紙がこんなにあるので、一人一人からお聞きできなくても構わないんですが。

一番大事な居住について、住む場所、その居住環境についてというのはとりあえずそこまでにしておいて、情報というところが随分、また張られております。

行政無線で情報を得るしかないお年寄りに確かな細かい情報が届かないという問題、ホームページにはあっても、お年寄りには、ホームページはなかなか見ないのではないかと、白馬村の女性Bさん。どこにいらっしゃいますか。

【参加者女性B】

ホームページは、若い人は一応見ることができて、毎回、パソコンがあれば細かいこと

は載っているんですけども。うちの母とか、近くにいる近所のおじいちゃん、おばあちゃんなんかは、やはり行政無線が唯一の手段で、あとはテレビとかそういったものになるので。

私どものところは、あまりそんなに被災はしていないんですが、細かい情報がなかなか伝わらないというような現実があるものですから、その辺が一律に伝わってほしいなというふうには思っております。

【内山二郎氏】

お年寄りにも伝わる、そういう伝達の仕方がほしいということですね。

はい。それから、被災、エリアメールが流れたんですけども、これはCさんですね。大きな揺れがあるので注意してください、〇〇に大きな揺れがあり程度しか出されなかった。これでは何か耳の聞こえない人やいろいろな人たちに対しては、何か十分ではないのではないかというご意見があります。女性Cさん。お耳が不自由なですね。では手話通訳してください。

【参加者女性C】

とにかく聞こえないということは、やっぱり地震が来たときにメールがチカチカしているので見たら、揺れがあるのではということだけで、どうすればいいのかなという、よくわからなかったんです。

家は無事だったのでよかったんですけども、2日後にテレビと新聞を取りにいった見て、テレビのニュースなどを見て、初めて状況がわかりました。でも、丸一日半ぐらい、どんな状況なのか全く私はわかりませんでした。家の周りのこともよくわかりませんでした。

【内山二郎氏】

ということですね。元気な人、それから若い、そのITを駆使できる人には、メールやITスキルで伝わるかもしれないけれども、お年寄りだとか、障がいをお持ちの方にしっかりと情報を伝えるということ、これはとても大事なことだと思います。

それから、もう少し聞きましょうか、情報が一元化され、周知されているか不安であるということ、これは白馬村の女性Bさんがおっしゃっています。お願いいたします。

【参加者女性B】

先ほどとちょっと似ているんですけども、同じ者です。

やはり皆さん、みんなに同じ情報が届いているのかなということが、そこがやっぱり不安で、届いていないところも結構あるのではないかという不安があります。

【内山二郎氏】

白馬村の男性Jさん。地震に対する備えの方法などの情報を全村に知らせてほしいとい

う、Jさん、どうぞ。マイクが来ます、後ろから。

【参加者男性J】

今回の断層が動いたというのは、前は、もう千年以上も前の話ですね。しかし、その後、一度も起こっていないので、いつ起こってもおかしくないということを専門家はもうずっと言い続けてきたんです。にもかかわらず、十分な備えをどうやってやったらいいかということ、私たちにはわからないわけですね。

だから、私は個人としては、本箱は全部固定すると。そういうことをやったために、難を逃れたんです。そういう情報はとても必要なんですが、いわば県として、理論的に今後どういう問題が起こるかということ、経験を積み上げた上で、あるマニュアルなどをつくって住民に流していただくのはとても大事なことだと、私は思います。私の経験はほんの一部です。ですけども、ほかにも随分あると思います。そういうものを何とか、そうやっておけばいいのかということ、わかるようなことが必要だと。

それから、県にお願いしたいことは、つまり専門家の意見を十分聞いていただいて、いつ起こるか分からないと言っているわけですから、一体どうしたらいいかということ、ひとつ、是非お考えいただきたいと思います。

【内山二郎氏】

ちょっとこの問題について。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございます。まず情報の周知は私も大変大事だと思っていて、今回、地方事務所に被災者生活支援本部というのをつくりました。地方事務所長が本部長です。土屋本部長、ちょっと。

地方事務所長が本部長で、皆さんの暮らしの、縦割りではなく、応援していこうということで考えています。そういう中で、被災者生活支援本部だよりというのを出し始めました。ここはどこかに張ってあるかな。避難所とかには今、張らせていただいていますし、市町村にもお渡しをしています。

今、お話しにありましたように、全世帯の、我々のインターネットだけで情報発信すれば十分だというふうには全く思っていない。そういう意味では、壁新聞みたいなものをつくれと私からは指示して、ここも張ってありますか、役場は。そういうものをつくっていますので、ちょっとまた市町村と相談して、どういう形でお伝えするのが、より、もっと便利になるかということは考えて、改善していきたいと思っています。

とりあえず、たよりはつくっていますので、ちょっと今、では所長の方から一言。

【北安曇地方事務所長 土屋嘉宏】

北安曇地方事務所長の土屋でございます。知事からお話しありましたように、私が生活支援本部の本部長ということで仰せつかっておりまして、皆さん方に情報の提供等、積極

的に努めてまいりたいと思っております。

それで、今、お話しのある生活支援本部だよりでございますけれども、今、第1号を出したところでございます。これから市町村の皆さん等とも相談しながら、できるだけ皆さん方のお役に立つような情報を順次提供してまいりたいと考えております。

壁新聞版でございますけれども、避難所になっておりますふれあいセンターには一部張っておりますし、A3判のものもございますので、これは市町村の皆さんと相談して、配布等についても検討してまいりたいと、こんなふうに思っております。

【長野県知事 阿部守一】

よろしくお願ひします。私も最近、老眼になってきたので、お年寄りの方も見やすいような記載で是非つくってください。

それから耳の不自由な方、災害のときは、やはり障がいをお持ちの方、障がい者の方に対する情報伝達がどうしても、遅れがちになるところがありますので、ちょっと今のお話しを伺いましたので、少し丁寧に対応するように考えていきたいと思ひます。貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。

それからもう1点、災害の備えですが。地震の予知ができれば本来望ましいいんでしょうけれども、今、そこまでは至っていません。ただ、お話しのあるように、ここの、例えばこの断層はいつ動いて、そして、地震予知連（地震予知連絡会）なんかでは発生確率がどの程度という、非常にアバウトではありますけれども、一応、そういうものを出したりしていますので、まずはそういうものは、もっと我々も県民の皆さんと共有していかなければいけないと思ひます。

加えて、今、県として、被害想定調査というのをやっています。そういうものもこれからしっかり行って、これからの防災には役立てていきたいと思ひています。加えて、非常に重要なお話しいただいたと思ひますけれども、やっぱり地震の専門家の意見は、我々ももっと聞かなければいけないだろうと思ひています。

特に今回の神城断層、そして糸魚川静岡構造線、こうした周辺についてどういう知見があるのかというのを、我々も専門家からしっかり状況を確認して、そして県民の皆さんにお伝えをするということをしていきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

【内山二郎氏】

ありがとうございます。それからインフラの問題、交通インフラ、それから上下水道のインフラの問題が出ておりますけれども、道路、鉄道等のインフラを早期に、復旧促進しれくれということですね。

それから年寄りの多い地区なので、これから冬になり、医者に行くのも大変になる、その足がとても心配というご意見があります。

まず、道路のインフラの整備に関しては、復旧整備に関しては、今、一生懸命やっているわけですね。

【長野県知事 阿部守一】

ええ、インフラについては、まず、もちろん全てのインフラは大事ではあるんですけども、私が感じているのは、まずここにもどこかにありましたが、上下水道、これ前回、お伺いしたときに、やはり家が住める状態でも、上下水道が使えないと家に戻れないというお話がありましたので、今、全力で上下水道の復旧、市町村の皆様方が取り組んでいることを県としても応援させていただいていますし、ほかの水道協会とか、ほかの自治体からも応援を得ながら、今、全力で取り組んでいます。

それからもう一つ、やはり、この後、また出ると思いますが、観光とも関連するのが道路をしっかり復旧させなければいけないという部分であります。

美麻からこっちの白馬に入ってくる道路も、これはやっぱり観光にとって一番重要な路線ですので、1日も早くということで、相当、建設部に発破かけて、頑張って通行できるようにいたしました。それから国道148号、これは観光バスが、今、まだ土砂崩れで全部通れる状況ではありませんけれども、観光バスが来ても迂回路を通過して通行できますということを、全国に今、発信をさせていただいているところでありますし、そもそもの道路の復旧自体も、今、国土交通省とか、専門家の知見も得ながら、1日も早く復旧していこうということで取り組んでいます。

また、市町村でも市町村道の復旧に取り組まれていますので、そうした部分も県としてしっかり応援をさせていただきたいと思っております。

【内山二郎氏】

それから、二次災害への心配ということで、随分、張られているんですけども。傾斜地の被災家屋、地割れ等があり、現地では改修不能であるという問題や、神城断層がどのように走っているのかわからないので不安ということをおっしゃっていますね。

この辺はどうでしょうね、これどのように走っているのかわからないので。

【長野県知事 阿部守一】

そうですね。これ先ほど申し上げましたように、土地が、この家屋の問題だけでなく、この地割れとか土地の問題については、来週から危険度判定に入っていきますので、是非またご協力いただきたいと思っておりますし、そこの部分の支援は、今、国の制度等では基本的に無いという状況になっていますので、ただ、この全体の状況を見てどういう対応をしていくのか必要なのか。住宅は大丈夫だけれども、地割れができて危険で住めないという方もいらっしゃいますので、そういう方への支援をどうすればいいのかというのは、我々問題意識をしっかり持って、対応を考えていきたいと思っております。

それから、先ほど内山さんが言っていたのは、どれですか。

【内山二郎氏】

今、そういうことですね。では、次、今、知事もおっしゃいました観光振興の問題とい

うことで、白馬村の男性Kさんがおっしゃっています。

ダメージを受けていないエリアに対する風評被害が非常に大きな問題ではないか。それから、これもKさんですか、スキー場が安全であることをアピールする手段として、知事にご来場いただき滑ってもらいたい。Kさん、2枚入っていますね。Kさんにちょっと、どうぞ。

【参加者男性K】

今、どちらかという、観光産業が大丈夫であることということでお話しいただいているんですけども。その前段で、やはり村内で、やっぱりダメージを受けたエリアと受けていないエリアが非常に差が大きいというところは、私も身を持って、今日も被災地の方に行き、作業の手伝いをしながら見て、非常に感じたところです。

なんですけれども、ダメージを受けた方も、観光関連で仕事をしている方が非常に多いです。彼らが実際に、まずは生活を安定させることが最重要だと思うんですけども、結局、その間に、スキー場を中心とした観光産業が非常に風評被害を受けて元気がない状態になると、余計に皆さんが戻っていただいたときに、うまくいかないということになると思うんです。

なので、非常に、自分の中でもいろいろ考えはありますけれども、分かれるところではあるんですけども、我々留守を守るという形でやっていきたいと思っておりますので、安全であるというところは事実として是非全国に伝えていきたいと思っておりますので、是非そういったところでお力をいただければと思っております。

【内山二郎氏】

ありがとうございます。

【長野県知事 阿部守一】

風評の問題は、私も大変、これ防がなければいけない課題だと思っております。

総理がいらしたときも、私が伝えたことは大きく二つです。住宅が大きく被害を受けているので、是非被災者の暮らしが元に戻るよう政府として応援してほしいと。それからもう一つは、お話しがあったように、今回の災害は、同じ村でも東側と西側、全く状況は違っている。特にスキー場はほとんど被害が出ていないので、風評が出ないように、特に白馬・小谷は海外からもお客様が増えている状況ですから、そうした発信をしっかりと丁寧にやってほしいということで。

早速、その翌日ですか、観光庁から海外に対しても、スキー場は安全です、大丈夫です、被害を受けていませんという発信をしてもらっています。観光庁長官にも私からも直接お願いして、そのこともしっかりやっていただいていますし、今、県としても、御嶽山の噴火災害への対応ということで、木曾の観光キャンペーンをやっていきますが、今回の神城断層地震に起因した観光対策も県としてしっかりやっていきたいと思っておりますので、是非、何というか、被災していない地域までが、今回の災害で元気をなくしてしまうことの

ないように取り組んでいきます。

是非、皆さんと一緒に発信したいと思いますし、それから、栄村のときと同じように、修学旅行とか、学校から来る子供たちもキャンセル等が出ているという話も伺っています。これは私の名前で前回も出したんですけれども、被害を受けていませんということをしっかり伝えるように、ほかの県に対して、学校に対しても伝えるようにしていきたいと思っています。

是非、この風評の問題は防ぎたいと思いますが、メディアの皆さんがいるので、もう1点だけ申し上げると、今回の地震の名前は「神城断層地震」です。神城地区にお住まいの方には申し訳ないと思いますが、この名前にさせていただいています。今、メディアの報道は、長野県の北部の地震とみんな言っているんですね。長野県の北部は非常に広いです。これはもう白馬・小谷のスキー場はもとより、志賀高原だとか野沢温泉もみんな北部ですから、そういうところまで問い合わせが来ているという状況です。

是非、ちょっとメディアの皆さん、今日聞かれていますので、メディアの皆さんが風評被害をつくるのではないかというのは、まさにここにも書かれていますので、私の意見ではないですから、是非ここはしっかり各メディアの皆さんには考えていただきたい。

実は今日も県の方から各メディアに対しては、この名称使用の問題についてはお願いをさせていただいているところでもありますので、ちょっとそういう、いろいろなことをしっかりきめ細かく対応しながら、風評被害が最小限になるように一緒に取り組んでいきたいと思っています。

【内山二郎氏】

ありがとうございます。それから、産業ということからいうと、観光と、ここは農業も非常に大きなウエイトを占めております。

来春の作付けがうまく始められるか心配である。小谷の男性Lさん。はい、お願いいたします。農業ですね。

【参加者男性L】

農地を守り農業を発展させたいという農業委員会の立場から、こういう山村の貴重な耕地を来年も春から作付けできるような、そんな状況をつくっていただきたいと、こう思っております。

【内山二郎氏】

この農業もやっぱり大きな問題ですね。

【長野県知事 阿部守一】

私も全く同じ思いであります。現場を見せていただくと、住宅の被害も大きいですが、農地も非常に損傷を受けている地点が多いなと思っています。

今、調査させていただいておりますし、来年の作付けに影響が極力少なくなるように対

応していきたいと思っておりますが、農政部いますか。農政部、ちょっと今の状況を、では説明してもらえますか。地方事務所の方から、お願いします。

【北安曇地方事務所農地整備課長 太田雅弘】

本日はどうもご苦労さまです。地方事務所農地整備課長の太田雅弘と申します。よろしくお願いたします。今の状況について若干説明させていただきたいと思っております。

調査につきましては小谷村、白馬村、それぞれ市町村と連携して調査しておりまして、昨日までに、一応、白馬村の方で、現在、確認しているものの調査を終わらせております。ただし、終わらせたといっても見落としとか、またこれから新たに出てくる場所もあると思っておりますので、引き続き来週以降もする予定でおります。

また小谷村につきましては、火曜日从小谷村の役場の方と、小谷の管内を回って調査をするということにしております。小谷村の山間地域で土砂崩落の場所もありますので、そういうところは入れないところもあるかと思っておりますが、来週をめぐり、一通り回る予定でおります。

大町市につきましては、美麻の部分で水田の被害が出ておりますので、大町市と打ち合わせをしまして、そちらも確認を今、終わらせておりますので、よろしくお願いたします。

【長野県知事 阿部守一】

調査した後の話をしてもらって、調査した後。調査するのはいいんだけど、調査した後、どうなるかという話をしてください。

【北安曇地方事務所農地整備課長 太田雅弘】

それ以降、復興に向けての、復旧に向けての作業に入っていくわけなんですけれども、その後、調査が終わりましたら測量しまして、設計書をつくりまして国に申請していく。国の申請自体は、多分、冬の時期になってしまうと思っておりますので、国と打ち合わせしまして、来春、雪解けとともに工事に入れるようにしていきたいと思っております。

内容的には、大きなものにつきましては仮設で水を通して作付けができるようにするということが一つ、重要になるかと思っております。また大きく、田んぼに大きな被害を受けているところにつきましては、やはり来年1年をかけて直さなければいけない部分も出てくるかと思っております。

また、小谷にあります山腹の水路、これは大きな土砂崩落等がありますので、これにつきましては、やはり仮設ですべて水を通したいと思っておりますけれども、来年新たに設計、調査をしまして、対策を考えなければいけない部分もあるかと思っております。

【長野県知事 阿部守一】

これ個別に、もうちょっと対応しなければいけないですけども。もちろん復旧最優先です。ただ大規模な被害のところは、たちどころに復旧できない場合もあると思っております。

ので、そういう場合には作付けする作物を変えるとか、いろいろなことを考えていかなければいけない場合が出てくると思いますので、またそれは個別にご相談させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【内山二郎氏】

それから、要するに地域コミュニティの問題が出ております。このままだと危険な地区と思って、地域から離れる家が増えるのではないかと、人口がもっともって減っていくのではないかとのご意見。

それから不安と思って、さらに限界集落に近づいてしまうのではないかと、加速が進むのではないかと、過疎に拍車がかかるのではないかとのご意見がここにかたまっていますね。

一人だけ聞いてみましょうか、三日市場のMさん、いらっしゃいますか。どうぞ、コメントを。

【参加者男性M】

すみません、私、今回被災しました三日市場区のMです。

被災された方のお宅を回っていく中で、今回倒壊したことで、その家屋を解体して片付けた後、このプレートの上に立つという危険という恐怖心から、この地から離れたいような話も一部聞こえてきたものですから、そうでなくても小さな集落ですので、その辺の心配を何とかなくしていただけたらありがたいなという思いです。

【内山二郎氏】

これは3番の将来、どういう地域を復興させるかということにもつながっていく話だと思います。

それから、ちょっと時間が押してきてしまいましたけれども、要するに心のケア、メンタルケアですね。子供たちの心のケアをどうするのかというのが問題ではないか。それから、被災された方々の心のケアが心配ですというご意見があります。

それから、そんなところですか、それでは一人、聞きましょうか。これはNさんですか、白馬村のNさん。

【参加者男性N】

教諭をしております、Nと申します。T O S Sという教育団体がありまして、そこで教師が力をつけて子供の力をつけるという指導法を研究しております。現場の教師ですから、子供たちが実際に地震があったときに、どういう精神状態だったかとか、どういう不安な状況だったのかというのがわかるわけなんですけれども。それに関して、実際に経験した立場から、ちょっと2番にも関わってくるんですが、そちらに書かせていただいたんですけども。

教師ができる子供のメンタルケアというのをテキストにして、皆さんに配布してはいかがかないということで、既にプロットを作成いたしました。教室の中でどういう楽しいこと

をして、子供たちを励ますのかとか、どういう状態を子供たちが見せているのかということテキストにしておいて、いろいろな学校に置いておけば、万が一のことがあったときに、こうすればいいんだと、子供たちがこうなっているときはこうしようということが、若い教師とかにもとりわけわかりやすいのではないかと思います。

それ、そういったものをもし作成したら、村とか、あるいは県ではご活用いただけるのかなという提案をしたいと思います。

【内山二郎氏】

提案をしたいと。心のケアのマニュアルを研究中ということなんですね。ちょっと一言、子供の問題ですが。

【長野県知事 阿部守一】

子供の皆さん、今、スクールカウンセラーの派遣等で対応させていただいていますし、避難所、あるいは避難所にいらっしゃっていない方に対しても、保健師を派遣させているような相談に乗らせていただいているところです。

教師の人たちが自ら主体的に活動してもらおうということは、大変いいことだと思いますし、また、そこはちょっと個別にどんなことを考えているかというのを教えてもらえれば、対応を考えたいと思いますので、よろしくお願いします。

あと、児童相談所の児童心理士の相談もやっていますので、やっぱり今回、本当に大きな地震で、家が失われた、あるいは家族が大けがをしたとか、いろいろな子供たちがいると思いますので、これからも子供の気持ちに寄り添って対応していきたいというふうに思っています。ありがとうございます。

【内山二郎氏】

まだまだこちらに赤いカードが張られているんですが、ちょっと時間が7時20分ごろまでに終わらせろという命令が来ておりますので、こちらの2番目の、では、私たちはこの状況の中で何ができるかという問題に移っていきたいと思います。

いろいろあります。家の片付け、整理、物の提供、情報発信、それから絆、助け合い、地域の安全、ボランティア、子供のケア、それから普段の生活というふうな括りをしてもらいました。

できることということで、男性Oさん、白馬村。身近なところより整理をし、いつでも困らないようにしておくこと。これはどういうあれで書かれたのかというのをちょっと、Oさん。

【参加者男性O】

やっぱりお百姓なんかをやっていると、なかなか家の中まで整理できていないという状況があるものですから、やっぱり今回、被災された方を見ると、やっぱり大変だというのはそういうところにあるのかなというふうに思っています。

だから、普段から家の、自分たちの身の回りを整理して、いつでも困らないようにしておいた方がいいのかなど、かなり簡単に考えたんです。

【内山二郎氏】

備えをすると、なるほど。ありがとうございます。それから今日も来て、テクニカルチームが何か明日から始動するんだという話がありましたけれども。

家の周りの修理、これは私にもできるということでしょうか。男性Pさん。

【参加者男性P】

私の家は、家自体はそんなに壊れていなくて、家具とかテレビとか、そういうのは落ちたんですけれども、家の周りの石垣とか、そういうのは崩れておりますので、自分でできる限りのことは修理したいと思っています。

【内山二郎氏】

自分のことは自分で、はい。ということであります。

それから、絆、助け合いというところで、これは、さっき当たりましたか、隣近所の助け合うことが必要であること、お互い助け合うこと。それから、村単位なら何でもできる。これは小谷村の村長さん、松本村長さんが言っていられっしゃいますね、あとでまた、最後にコメントを聞きたいと思っておりますけれども。

それから小谷村の、これは男性Qさんですか。少し落ちついた後の被災者の声を聞くこと。だったら心のケアですか、これをちょっと聞いてみまじょうか。これはQさん、小谷村。お願いいたします。

【参加者男性Q】

たまたま村議会の立場ということもありまして、今はとにかく被災したところも大変な状況になって、もう少し経ったときに、これから今後どうするかという具体的な問題があるということ。そこをどうやって声を聞いて、どんな解決策があるのかなというのを一緒に考えたいと、そういう必要があると思っております。

【内山二郎氏】

住民と一緒に考えるという、村議会議員としてですね。はい。

それから具体的に物の提供ということで、野菜の提供はできると、こうおっしゃっていますね。大町市の男性Rさん。

【参加者男性R】

大町市の農業委員会のRでございます。

災害が起きて、後日に地方事務所から連絡がありまして、私ども農業委員会では、直ちに避難所に必要な野菜というものを提供させていただきました。また、後の会議におきま

しても、全員の方に連絡があったら、みんなで出しましょうということで話を進めておりまして、是非、そんな状況がございましたら、私どもも提供していきたいと思っています。

【内山二郎氏】

はい、というような同じようなことで、提供できる物資があれば提供したいというご意見とか、それから募金をしようというご意見もありますね。被災者を泊める、一時的に泊めることができる。これは、今、もう既に行われておりますけれども、男性Sさん、はい、白馬村。自分の家を提供することができるということですか。

【参加者男性S】

私たちのところ、地域として割合被害がなかったというか、なかったような状況で、部屋は、今、空いているところが、私のところもそうですが、周り近所もありますので、今、体育館等で厳しい生活をしておられる方々、少しでもお役に立てればと思っております。

【内山二郎氏】

ありがとうございます。ちょっと読み上げて、その後、知事からコメントをいただきたい。

ボランティアということで、大町市のTさん、被災者の要望に寄り添って聞き、できることから手伝っていききたいというようなことをおっしゃっていますね。

それから男性Uさんが、被災した建物の復旧可能性を指南することができる、そういう技術をお持ちなんでしょうか、ネットワーク、はい、Uさん。

【参加者男性U】

こんばんは、県外の新潟市からまいりましたUです。

概ね被災から1週間ということで、こういう変動があったという中で、いろいろ話もありましたが。

そういった中で、自宅の修復の可能性、応急危険度判定というのがあって、関連はあまりないという中で、中越地震、中越沖地震等の経験から見えているんですね。

そういう中で、修復の可能性を慌てて捨てない、■■■今、その■■■を目の前にして、もう■■■判定になって、不安を抱えていらっしゃる方も当然おられると思うんです。今、まずこの冬越しの前に当たっては、雪おろしができない形の、応急対策をして、そして来春以降考えようということで警鐘はしています。

おおむね2年から3年というところで、家屋の修復、■■■動けなかったんですね、いっばいに自宅に■■■■、一部でつくれるようになったという方も多数出ておりますので、どうぞ希望を捨てないで、家屋のことについて、真剣に向き合っていきたい、そういただきたいと。

【内山二郎氏】

指南ができると、これはどういうことですか。

【参加者男性U】

はい、私は古民家の再生をしているものですから、そういうものの中で、災害が起きたときに一齐にそういった地域の、民俗遺産でもあるそういう伝統的な建物が失われるということを非常に危惧する中で、その古民家再生を本業としている中でアドバイスができればということで、えらい格調高いことまで書いてしまったんですが。

【内山二郎氏】

ありがとうございます。指南という。

知事、自分のできることや、それをいろいろな技を發揮して、やっぱりこの、今、困難なときを乗り越えようという、そういう力の出し合い、助け合いというのはとても大事だと思うんですが。

【長野県知事 阿部守一】

いや、これは、何というか、まず今回の地震で、私が国の関係省庁に、先日いろいろな、お礼とお願いで回ったときに、これは全ての人たちから異口同音におっしゃっていただいたのは、本当に地域の皆さんの支え合い、助け合いの姿を見て、政府としてももしっかり頑張らなければいけないと、改めて地域の力というものを感じたということも多くの方たちがおっしゃっています。

天皇皇后両陛下からも、地域の助け合い、支え合いの中で、被災者の皆さんが頑張っているというところに対するお見舞いと励ましのお気持ちということを、侍従長から私のところに直接お伝えいただいたところでもあります。

先ほども申し上げましたように、コミュニティというお話がありましたが、やはり、先ほど三日市場の方のお話しありましたけれども、是非、この地域の支え合いとか地域のコミュニティができるだけ維持されるように、私は復旧、復興を考えていかなければいけないのではないかと考えています。

そういう意味では、こういう形で皆さんから、自分はこれができる、自分でこれやる、これで応援するという話がいっぱい出ているということは、大変、私はすばらしいことだなと思います。これは皆さんの支え合いに頼るだけでなく、我々行政もしっかり知恵を出していきますし、是非皆さんのお互いの支え合い、助け合いというのは、これからもしっかりと継続していただければありがたいと思っています。ありがとうございます。

【内山二郎氏】

さっきも申し上げましたけれども、犠牲者が出なかった。死者が出なかったというのは、ここの地域の、やっぱりならでの、コミュニティがしっかりしていたからだということが言えると思うんです。それをやっぱり維持していただきたいと思います。

それから、自分はこれができるということの中に、情報発信というのがあります。白馬

の現状の発信を自分はできるという、これは女性Dさんがおっしゃっています。

それから、この地域は大丈夫だという情報発信をしたいというのが、大町市の男性Vさんがおっしゃっています。まず、女性Dさん、いらっしゃいますか。

【参加者女性D】

今でもフェイスブックやツイッターなどで、いろいろな人が白馬の現状についてつぶやいたりしているので、そういうことでしたら自分でもできるかなと思って。

やっぱりメディアの方ももちろんたくさん報道してくださっているんですけども、現地の方が、より近く、確実な情報が発信できるのではないかと思います。

【内山二郎氏】

という、若い人ならではのご意見ですね。男性Vさん、はいこちら。

【参加者男性V】

やっぱり風評被害ということが一番心配な部分がありますので、私たち個人で、では何ができるかということですが、やはりそれぞれみんな携帯電話を持っていますので、そういった部分では、もう携帯電話の中に自分たちの友だちだとか親戚だとかというのは入っているので、もう個人的にはできるだけ、そこから大丈夫だよ、大丈夫だよという、個人として発信していくようなことですね。

【内山二郎氏】

発信していきたいと、ありがとうございます。

普段の生活という何か面白い括りをしてくださっていますね。ずくを出すしかねえじゃねえか。小谷村のWさんですか。こう書かれたものに対する気持ちをお聞かせください。ずく出すしかねえじゃねえか。

【参加者男性W】

そうですね、お互いにずくを出して何でもするしか仕方がないと思うんです。自分でやるしかしょうがないと。自分でやるしかしょうがないとって、何でもかんでもやっぱりずく出すしかないというふうに思います。

【内山二郎氏】

なるほど、知事は県外のご出身ですけれども、長野県のずくという言葉はご存じですか。

【長野県知事 阿部守一】

いやもう、県でも、ずく出せというのはいろんなところで使わせていただいていますので、是非、みんなでずく出して、いきましょ。

【内山二郎氏】

ということですね。それから、早く正常に戻るため自分で努力する。自助努力が必要だと、男性Xさんがおっしゃっていますね。ということで、時間が迫ってきております。

では、この地域を将来に向けてどうつくっていったらいいのかということで、こちらから、災害に強い、そういう村・町にしたい。それから絆、支え合い、さっきも出ていました。安心・安全、それから観光リゾート。それから働き続けるために必要なこと、若いも若きもというふうな、少しずつ聞いていきたいと思います。

白馬村の男性Yさん。災害時、避難所の充実、これは耐震構造で、障がい者も受け入れられるようなということが書かれていますね。Yさん、どうぞ。

【参加者男性Y】

私の家は棚の物が転んだくらいしかないので、迫力はないんですけども。耐震構造というのは、白馬村の避難所というのは耐震構造のところはほとんどない。これはもう長年の村民の希望ですが、やっぱり経済的事情が一番大きいんでしょう、なかなかそうならない。

今回でいうと、被害が大きいのは堀之内、三日市場ですね。だからあの辺にも災害時の一時避難場所というのはあるんだけど、多分、そこもいかれてしまっているだろうと。

それで白馬村の場合は、このふれあいセンター1カ所になっているんですが、ここは耐震構造なんだろうと思いますが、見ればわかるように、役場の駐車場が一緒になっていますから、ボランティア工事だと車をとめる場所がないんです。だからもうちょっと分散できるような。小谷村はそうなのですね。そうってほしい。

それから、お年寄りとか、体の具合の悪い人もおられたと思うんですけども。その人たちがどうなっているのかという情報は我々には届いてこないんですね。ですから、そういうことが多いんです。

【内山二郎氏】

そういうこと、お年寄りや体の不自由な人たちの情報もみんなに行き渡り、お互い助け合えるような、そういう関係をつくる。それから、その前提として、災害に強い、そういう環境づくりが必要であるということでしょうか。

それから、白馬村の和田野の男性Sさんですか。国内外の人が情報をとりやすいシステムを持つこと、これが将来に向けて大事なことはないか、Sさん。Sさん、さっき当たりましたね。これ、このままでよろしいでしょうか、ちょっと多くの人から聞きたいのですが、そういうことですね。

ここは本当に海外から観光客が来る、そういう場所であるということで、その人たちに対して情報が取りやすい、そういうシステムを整えるということですね。

それから絆、支え合い、さっきから出ておりますけれども。男性Zさんですか、白馬村。住民がお互いを知り合い、協力できる地区になることが将来に向けて大事ではないかと、これ大事なことですね。Zさん、どうぞ。

【参加者男性 Z】

先ほどから言われていますけれども、堀之内の方が本当に助け合って、一人も死亡者が出なかったということは大変いいと思うんです。よく聞くと、夜中に電話したら、大事な人を助け出したなんていう、その人は後になって自分のけがに気がついたと、こういうこともやっていました。

ただ残念なことに、私の住んでいるところは被害がなかったんですが、区に入っている人が3分の2ぐらいしかなくて、なかなか同じ区で近くにいても、区の中でもどういう人がどこにいるか知り得ないでいて残念です。私は近くのところは、もう両手ぐらいわかりますけれども、当然、そういうところを何とかしたいなと思っています。それは白馬村全体の課題だと思いますけれども。

【内山二郎氏】

ありがとうございます。それから、希望を語れる村にする、将来に向けて、男性 a さん。もう暗い話ではなくて、希望を語れる村にしたい。

【参加者男性 a】

常々思っているんですけれども、先ほど知事もコミュニティの力だとか、そういったことで、できるだけ現状に近い形で戻ってくることがこの村の強みになるのかなと。

やはり将来にわたって、学校の子たちだとか、若い方たちが夢を語って、こういう村にしていきたい、活気のある形にするにはそういったことが、抽象的なんですけれども、そういったことが大事なのではないかなと思います。

【内山二郎氏】

なるほど、ありがとうございます。

大町市の男性 b さんもおっしゃっています。隣組の絆を今後さらに強くし、何ごとも話し合いのできる地域にしたい、b さん。

【参加者男性 b】

隣組といえば、昔から世話焼きばあさんといった人がいたものです。それで、そういうおばさんみたいな人が軸になって、やはりどこの家には誰がいる、どんな家族構成されているかというのがわかるような、そんな温かい隣組の体制ができれば、今回のようなことがあったときにすぐ対応ができるというふうに思って書きました。

【内山二郎氏】

ありがとうございました。絆、支え合いという、まだまだいろいろな人たちがこれを出していらっしゃると思います。

安心・安全の地域をどうつくっていくか、いつまでも住めるところにしたい。これは c

さんがおっしゃっていますね。それから大町市の、お名前はありませんが、安心して生活できる環境整備が必要である。それから、堀之内のdさんが、安心・安全に住めるようにしたい。

それから、これは男性eさんが、白馬ですね。村内をゾーン分けをして、それぞれに通したまちづくりを防災面でもすることと、これちょっと聞いてみましようか、eさん。

【参加者男性 e】

我々の地区で、私どもの地区は直接の災害は免れました。ただし、もし同じような災害が当地区で起きた場合は、さっきもおっしゃいました、人づき合いとか地域のコミュニティの隣組を生かしたような対応は不可能な地域で、観光地であります。

なもので、そういう旧来からある地域はそういう形のコミュニティの防災、私たちの地域は私たちの地域でできるような防災を考えていけるような形で、それぞれの地区に合った防災を、あと文教地区も、役場のこの地区もありますので、その辺も、さっきおっしゃったように、耐震を強化して、この地区に避難できるようにするとか、そういう形で、それぞれの地域がそれぞれに合った防災面を、是非していければと。

【内山二郎氏】

なるほど、ひと括りで防災と考えるのではなくて、それぞれの地域に合ったということですね。

【参加者男性 e】

たぶん今回の堀之内地区の防災対応を別の地区に、私どもの地区に持ってくるのは不可能だと思うので、そういう形で、はい。

【内山二郎氏】

ということですね、それぞれの地域に合ったということ。

それから、これは男性fさんですか、安心して住める、そして今までどおりなじめる住民の地域にしていきたいと。難しいことですが、住民が暮らしができるようにしてください、そういう暮らししてくださいと。fさん、これはちょっと直接の言葉で聞きたいです。

【参加者男性 f】

私、八方地区で民宿をやっておりますが、私の地区は幸い実災もなく、それから、家屋の倒壊とかそういうことも、多少はありましたけれども、そんなに大きな被害はありません。被害に遭われました皆さんには、本当にお気の毒だと私は思っております。

それで、将来どういう地域をつくっていくかということについて、私、ちょっと書いたわけではありますが、非常に難しいようでもありますけれども、まず個々の生活が安全にできる地域にするには、やっぱりその地域の人たちが一緒に問題を把握しながら考えていくこ

とが一番大事ではないかというふうに思ったので、ちょっと書いてみましたが。本当に被災地の皆さん、被災に遭った皆さんにはお気の毒さまということをおし上げておきます。ありがとうございました。

【内山二郎氏】

ありがとうございます。自分たちの課題は一体何なんだ、将来に向けて安心して住み続けるためにはどうしたらいいかということをおし地域全体で話し合い、考えるという、そういうことがまず大事だということをおしやっています。とても基本的な大事なことだと思っています。

それから、働き続けるためにということで、男性 g さんが、地区を協同で働ける場所にしていくと、協同でという言葉が出てきましたね。地区を協同で、単独ではなくて、g さん。

【参加者男性 g】

私の地域は、今、ふれあいセンターに避難をしております。ただ、家自体の損壊が比較的小さかったものですからよかったですけれども。他の地区と比べて、我々の地域というのは18戸しかないんです。だからか、協同体制でいろいろなことができておまして、ですので、やはりこういう地域の中でお互い協同でやっていく、そういう場所をつくっていかないと、やはりこれ一部の地域の損壊だけで済んだんですけれども、これが白馬村全体となると、簡単にいかないわけです。

ですので、各地域がいろいろなコミュニケーションをとれるようなシステムをつくっていくということが重要ではないかと。それと、あと皆さんがお互いに顔を知っていかれるような地域づくりということが必要ではないかと思いました。

【内山二郎氏】

ありがとうございます。コミュニティをしっかりと作り、そしてお互いが協同して働けるような場所をつくっていくということですね。

働く場所ということでは随分出ていますけれども、若者が住める村、現在、子供たちはみんな村外にいるため、働く場所がほしい。これちょっとお名前がありませんけれども、これも大きな課題だと思います。

そして、この最後の括りですけれども。災害にめげず、若い人たちが住みたくなる地域づくり、これが大事ではないか。それから三世代がバランスよく住める村づくりをしたい。自立した村づくりをしたい。これちょっと聞きたいです。h さん。

【参加者男性 h】

うちの村は比較的、限界村落ではなくて、若い人、子供さんと働き盛りの人とお年を召した方、三世代うまく、9,000人の村ですけれども、住んでいます。これ日本の人口構成とほぼ同じなんです、みんなに住む。パワーを持っていますので、これはなぜかという、

雇用が、若い人が働く雇用がまだある方で、9,000人の村にはあるんですよ。それは観光で食べているんです。

だから、これは今後とも将来にわたって三世代が住み続けるには、やはり何で食べていくか、観光振興ですので、今後も、まず当面は風評被害による落ち込みを抑えながら、将来的にも観光として、リゾートとして発展していくようにすれば、バランスよく、自立した村ができるのではないかと考えています。

【内山二郎氏】

なるほど、自立した村づくりですね。

では最後、行きましょうか。これ、さっき発言されましたか、男性Mさん、三日市場。若者、特に大学を卒業した後の若者が帰ってきたいと思える村になってほしい。Mさん。さっきいたはずだけれども、帰ってしまいましたかね。

ではもう一人だけ、男性Nさんはさっき発言されましたか。では男性iさん、自分たちのことは自分たち、自分たちでも子供にふるさとを、ちょっとこれ言葉で説明してください、iさん。

【参加者男性 i】

今回は直接的に幸いにして、幸いというか、被害を受けた方にはお見舞い申し上げますが、反面、観光の一番の収入源になるところは生きていますので、ここがしっかり立ち上がることによって両方のバランスといいますか、マイナスになった方をカバーできるように、自分たちのことは自分たちでやりたいと。

今、一番心配していますことは、外部からの投資目的とした、要するに家屋の購入というものが大変増えています。それから、それが結局、観光業の民泊も圧迫する部分ですので、そういうことも含めてしっかりとした対応をしないと。

皆さん思い出されると思いますが、3.11の2日後には外国人が全員いなくなりました。ここで同じようなことが起きた場合、僕らはその家屋をそのまま残すようなことになっていけば、子供たちに、ふるさとを残して戻ってくるような環境をつくるのに障害になるのではないかと思いますので、行政にはきちんとそれに対する対応をしていただきたいと思っています。

【内山二郎氏】

なるほど、ありがとうございます。ということで、一番最後に、まとめて知事からのコメントをいただきますが、このところで何か感じられることはありますか、将来という。

【長野県知事 阿部守一】

まず観光リゾートというお話を、さっきの観光、当面の対応としても、それから未来に向けてもお話しが出ているんですけども。

実は、総理にも言ったのは、長野県は、今年「山の日」をつくって山岳高原観光地、世

界水準の山岳高原観光地をつくろうと。加えて、そのモデル地域として、3カ所指定したんです。それで、この北アルプスの山麓、小谷、白馬、大町。それと御嶽山を抱えている木曽町が実は3つのモデル地域のうちの2つ、我々が世界水準の山岳高原観光地をつくろうと言っていた矢先に、火山噴火と地震災害に見舞われたと。これは、我々としては何とか立ち直らせる。そして、今、これまで、これは地域の皆さんの努力もあって、海外からのお客様もどんどん増えてきている状況です。これを絶対、後退させないようにしていかなければいけないという話を観光庁長官にも総理にもさせていただいています。これは是非、県の力だけではできません。市町村とか観光関係の皆さんと一緒に、この難局を乗り切っていきたいと思っています。

先ほど内山さんもおっしゃっていましたが、海外に対しては、是非スキー場は被害が出ていないということをしっかり伝えていかなければいけないと思いますし、逆に、私はこの絆、支え合いとか、安全・安心のまちづくりというのをもう一回、今、今回は本当に県民の皆さん、住民の皆さんの支え合いの中で死者が出ないということで、大変、私とすれば地域の皆さんに感謝しなければいけないと思っていますが、これはもう一回、もう一歩進める形で安全・安心の地域づくり、そして絆、支え合いの地域づくりをしっかり行うことによって、海外にもこういう優れた地域だということを発信することで、観光面でもプラスに持っていくことができれば良いなと思っています。

【内山二郎氏】

ありがとうございます。

【長野県知事 阿部守一】

もう一つあるんですが。そういう意味で、実は、私は、ここにも若者、若いも若きも働き続けられるようにしようという話が出ていまして、実は来年度予算を県として考えているところですけども、来年度予算の大きな柱の一つは、この人口減少をどう防ぐか。やっぱり人口減少を食い止めるには、若い人たちがちゃんと安定した雇用がなければいけないし、若い世代が未来に夢を持たなければいけないので、そういうところに力点を置いて予算編成しようと思っています。

加えて、今年は2月の大雪災害、そして夏は、7月は南木曽の土石流災害、9月の御嶽山の噴火があって、今回、この神城の断層地震が起きて、本当に今年は長野県にとって災害が相次いだ年に、残念ながらなっていました。

でもこれを我々は教訓にして、是非来年は、来年以降、本当に安心・安全ということを県の政策の柱に据えて、予算編成を是非していきたいと思っています。

ですから、これは皆様方の復興支援ということもしっかりやっていきたいと思っていますし、これは今回の神城断層地震で我々が復興しなければ、先ほどいろいろなお話をいただきましたし、我々行政としてもやらなければいけないことが見えてきましたので、そうしたことにしっかりと対応する年にしていきたいと思っています。

【内山二郎氏】

ありがとうございます。時間があれば、またまとめのコメントをいただきますけれども。今日は、知事、ありがとうございます。ちょっとお戻りください。

被災された白馬村、それから小谷村、それから大町市の首長さんも来ていらっしゃると思います。今、皆さんのお話を聞いてどうであったかというのを、まず、それでは牛越さんから、一言ずつお願いします。

【大町市長 牛越徹氏】

大町市の市長の牛越でございます。今日は一緒に参加させていただきました。

まず、この地震で被害を受けられた皆さん、本当に心からお見舞い申し上げます。突然の災害でございました。特に被害が集中しました白馬村、小谷村、そして私ども大町市も中山間地の美麻地区で甚大な被害が出ました。

今日は実は知事さんにもつぶさに見ていただきましたが、美麻地区は傾斜地に多くの住宅が建っていて、地割れ、そして亀裂、朝起きて初めて家の方も気がつくというような、そんな大きな災害でした。

そうした中でこれから、先ほどの知事さんのお話にありましたように、住宅の再建、修理というのがまずあって、そして生活の再建につながる。そしてその再建がさらにコミュニティの再建、絆の再建にもつながるということを本当に強く感じました。

ですから、市町村としてもできる限りの応援をさせていただきます。と同時に、また観光地であります。これから年末年始の大事な時期を迎えます。冬の観光、スキー、あるいは温泉観光についても、やはり市も市町村、これは個別にやっていてもなかなか効果が上がりません。県にご支援いただきながら3市村が協力して、協働で具体的な展開をしていきたいと思っております。

特に風評被害を避けるにはやはり具体的な、そして正確な情報を発信する。これに尽きると思っております。力を尽くしてまいりますので、どうぞよろしく申し上げます。ありがとうございました。

【内山二郎氏】

ありがとうございます。それでは、小谷村の松本村長さん。

【小谷村長 松本久志氏】

小谷の松本です。改めて、被災された皆さん本当に大変なことではございました。でも、私、小谷村の皆さんといろいろ話をする中で、やはり地域のコミュニティ、しっかりしていれば、何でも私は乗り切れると思っています。

実はそこに自分たちで何ができるのか、小谷村は、村がみんなで頑張れば何でも私ではできると思っています。ですから、これから自分たちでできることは自分たちでやる。それで協働、その集落なり、地域でできることはみんなでやろう。それでもできないことはいっぱいあります。だから、それは一生懸命、小谷村も頑張ります。まだ小谷村が頑張っ

もできないことが出てきますので、それは今日も来ている長野県の皆さんに全部お願いして、全部、小谷村でもできないことはやってもらおう、そういう気持ちでいます。

一歩一歩前を見てしっかりと進んでいけば、ちょっと時間はかかるかもわかりませんが、絶対私はできると思っています。ですから、是非みんな元気を出して、お互いに力を出し合って頑張っていけると思っています。よろしくお祈りします。

【内山二郎氏】

ありがとうございました。それでは、地元、白馬村の下川村長さん。

【白馬村長 下川正剛氏】

皆さん、こんばんは。11月22日10時8分に震度6強というような大地震が起きたわけでごさいます。本当に堀之内、三日市場、そして姫川東部が大きく被災されたというようなことで、被災された方々に改めてお見舞いを申し上げるところであります。

今、こうしていろいろな村民の方々のご意見を頂戴をする中で、改めて村づくりに皆さんと一緒に頑張って取り組んでまいりたいと思っております。

まだ、ふれあいセンターの方には約170名の方が避難をされているわけでごさいますけれども、先程来、お話がありましたように、俺の民宿が空いているから来いとか、俺のホテルが空いているから来いという、そういった温かい声がありまして、明日からお世話になるようになっております。

そんな中で、これから雪が降るわけでごさいますけれども、何とか年内に仮設住宅を完成させるというようなことで、県の方で力を入れていただいております。そんな中で、国、県も一生懸命、この支援をいただくということをお声をいただいております。そんな中で、こんなときこそ、この白馬の底力を皆さんと一緒に立ち上げていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお祈りをしたいと思います。

そしてまた、先程来、風評被害というような言葉がありましたけれども、この白馬・小谷・大町、HAKUBA VALLEY（ハクババレー）ということで、一緒になって観光振興にも努めてまいりたいと思っておりますので、どうかよろしくお祈りを申し上げ、簡単でごさいますが、私の言葉といたします。

【内山二郎氏】

どうもありがとうございました。最後に知事、一手に今日は引き受けて、コメンテーターをやっていただきましたけれども、総まとめの言葉をお祈りします。

4 知事結びのあいさつ

【長野県知事 阿部守一】

どうも、今日は皆さんありがとうございました。

本当に余震が続く中で、そして、今日も、午後は天気がよくなりましたけれども、非常に雨が降ったり、そして雪の日々が近づいたりという大変厳しい環境の中で、被災された

皆様方が毎日いろいろな思いで過ごされているということを常に頭に置きながら、県政を進めてまいりました。

今日いただいたご意見は、これはちゃんと整理して、ちょっと今日、内山さんに読んでいただけなかった方もいらっしゃると思いますが、全部、これ整理させていただいて、我々しっかり全部受けとめさせていただきたいと思います。

そして、今、11月の県議会が始まっていますけれども、県議会の皆さんともご相談して、復興の予算は追加してでもしっかり早く対応できるようにしていきたいと思っています。

当面、避難所にいらっしゃる皆様方が少しでも快適な環境に移っていただけるようにならなければいけないと思っていますし、加えて住宅の問題、ご自分で再建がしたい方、できる方、それからなかなかそれが難しいという方、様々いらっしゃると思います。住宅相談等で皆さんの思いとかニーズを聞かせていただきながら、今回の方針の中でも融資を受けられる方、先ほど言った被災者の生活再建のお金のほかにも、融資を受けられた方への利子補給も創設をさせていただいていますし、これは仮設住宅なり、旅館・ホテルというところに移っていただいたその先の話になりますけれども、必要があれば、これは市町村の皆さんともよく相談をさせていただいて、公営住宅を建設していくということも考えていかなければいけないと思っています。

私どもは、本当に先ほどから出ている地域の絆、地域の支え合い、こうしたものを是非これからも皆さんが維持することができるよう、最大限、応援をさせていただきたいと思っています。もちろん、これは先ほどからお話しが出ているように、正直なことを言えば、行政ができることとできないことがあります。個別の皆さんに本当にきめ細かく対応したいというのは、私は気持ちとしては持っていますけれども、なかなか行政としてはやっばりできない、地域の皆さんの支え合い、助け合いで頑張っていたかなければいけないことも、正直あります。そうしたことを我々は皆さんには期待しながら、とは言え、皆さんだけではできない、あるいは市町村だけではできないことは、私どもは全面的に皆さんの思いを受けとめて対応させていただきたいと思っております。

これから雪のシーズンになってきて、どんどん気温も下がってくるわけでありまして。是非、被災された方々には、お体に気をつけていただいて、そして本当に、国も県も市町村も皆さんと一緒にこの災害に向き合っていきますので、是非、前を向いて、希望を持って進んでいっていただきたいと思っておりますし、我々はそのための応援を最大限、行わせていただきたいと思っております。

それからこの地域は、先ほどからお話し出ていますように、直接被災されていない方々もいらっしゃると思いますが、スキー場、旅館・ホテル、元気な方々もいっぱいいらっしゃいます。そうした皆さんには、是非しっかり頑張らせていただきたいと思っておりますし、我々も、先ほど申し上げたように、風評被害が出ないように、最大限、頑張っていきますし、それにとどまらず、この地域のポテンシャルを最大限生かして、もっともっと日本全国から、そして世界各地からこの土地に訪れていただくことができるような地域づくりを進めていきたいというふうに思っています。是非この点は皆さんと一緒に取り組みたいと思っておりますので、ご協力をお願いしたいと思います。

今日は本当にお疲れのところ、そして大変な状況の中でお集まりいただきましたこと、重ねて、改めて御礼を申し上げたいと思います。今日いただいた皆様の思いをしっかりと受けとめて頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。

【内山二郎氏】

ありがとうございました。阿部知事、どうもありがとうございました。

皆さんと話し合いをした2時間だったんですけども、今日は3つのテーマについて、それぞれ皆さんのご意見を出していただきました。さっきも申し上げましたが、一人ひとりのご意見を丁寧に丁寧に拾い上げて、そして皆さんの気持ちをお聞きしたかったんですが、それができなくてとても残念です。しかしこれは整理して、また皆さんのところに返してフィードバックしていく、そういう手だては是非とっていただきたいと思います。

私、今日特に感動したのは、この11月22日、本当に突然大変な被害を、被災をしたわけですけども、改めてこの地域のコミュニティ、人と人との関係がこんなに密度濃く結びつきあっているんだということが改めてここで浮かび上がったと思います。そして将来、この地域をどうつくっていきたいかというところに、この人の絆を是非生かして、そしてさっき知事もおっしゃいましたけれども、海外に発信するときも、こんなに温かい人の心と絆がある地域なんだということを是非発信し、多くの人たちに来ていただけるような、そしてここに住んでいる人たちが本当に安心して暮らしていける地域を皆さん自身の力で、それから我々も一緒になってつくっていければと思います。今日はどうもありがとうございました。

5 閉 会

【広報県民課長 土屋智則】

内山様、そしてご参加いただいた会場の皆様、どうもありがとうございました。

本日は限られた時間でございます。これからも地域の復興に向けて、県や地方事務所の方にご意見をいただければと思います。

それでは、これをもちまして県政タウンミーティングを終了いたします。長時間にわたりご協力いただき、ありがとうございました。

本日は雨模様でございます。お帰りは気をつけてお帰りいただくようお願いいたします。明日が晴れることを祈っております。ありがとうございました。